小倉豊文

ヒロシマ絶後の記録

広島原爆の手記

火薬庫の爆発か？　数百の爆弾の一斉投下か？　あるいは殺人光線？　一瞬にしてヒロシマがふきとんだあのの衝撃と悲しみを、行方不明の妻と三人の子どもをさしつつ廃虚のなかでつづった被爆記録。数多い原爆記のなかの「最初」の貴重な文献！

¥1300　太平出版社

小倉豊文 おぐらとよふみ 1889年，千葉県市川に生まれる。広島文理大卒。広島文理大・広島大学教授をへて，現在 親和女子大教授，広島県文化財協会長，藝備地方史研究会長。著書に『聖徳太子と聖徳太子信仰』『宮沢賢治の手帳研究』その他がある

ヒロシマ-絶後の記録

1971年7月26日　第1刷発行
1979年6月15日　第8刷発行

¥1300

著　者　小倉　豊文
発行者　東京都千代田区神田神保町1-46　崔　容徳
印刷者　東京都新宿区東五軒町50　信毎書籍印刷

発行所　東京都千代田区神田神保町1-46-2　美成社ビル
株式会社　太平出版社 ©
電話 03-295-3531(代表)　振替東京1-99563

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

シリーズ●戦争の証言③

小倉豊文

ヒロシマ 絶後の記録

広島原爆の手記

太平出版社

シリーズ・戦争の証言3

ヒロシマ—絶後の記録—

広島原爆の手記

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

シリーズ・戦争の証言（第一期・全20巻）を完結するにあたって

1　一九七〇年から準備をすすめてきましたシリーズ・戦争の証言は、八年をかけて、ここにようやく第一期・全20巻を完結するはこびになりました。ながいあいだ熱心なご支持を賜わりました読者の皆さまにふかくお礼を申上げます。

もしこのシリーズが、むなしく風化しようとする一五年戦争の体験を正しくうけつぐ作業に多少でも貢献をすることができれば、わたくしたちの最も幸いとするところです。

2　この八年のあいだに、戦争体験を継承する作業が、戦争の体験者ばかりでなく、ようやく「戦争をしらない」世代にうけつがれはじめたことを、わたくしたちはつよく感じております。しかし一方には、「防衛力」強化の名による途方もない軍事力の拡張にみるまでもなく、日本軍国主義の復活への試みが、陰に陽に、さまざまな形で執拗につづけられていることも、見のがすことができません。

3　わたくしたちは、一五年戦争によってむなしく失なわれていったおびただしい生命と肉体が、いまだに真に弔われぬまま怨念の魂となってアジアの地を匍い空に満ちている、と認識しています。忘れることのできないあの日の体験の集積を、いっそう国民全体のものにすることは、やはりさし迫って重要なことに思われます。

4　戦争中またはその前後に書かれた記録や資料（日記・メモ・手紙、その他）をお持ちか、その所在についてお心当りがありましたら、どのようなものでも結構ですから、小社までご一報下さい。すぐれた記録については、関係者のご承諾を得て、シリーズ・戦争の証言（第二期以下）に加えて刊行したいと思います。

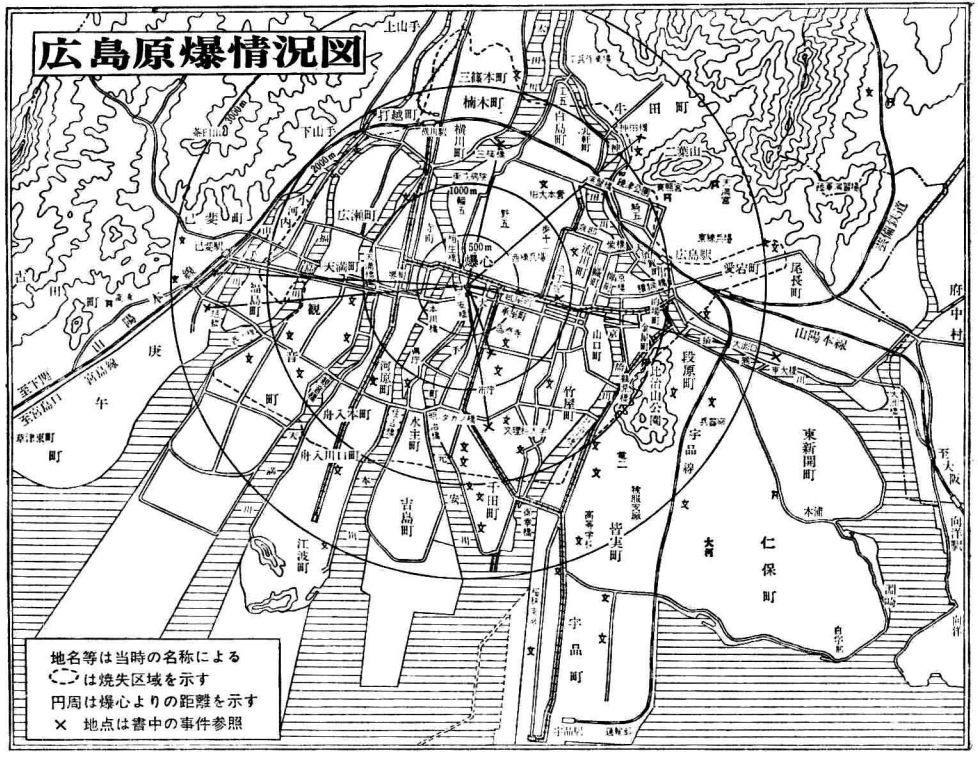
一九七八年七月七日　　太平出版社　シリーズ・戦争の証言　編集部

ヒロシマ―絶後の記録　目次

シリーズ・戦争の証言（第一期・全20巻）を完結するにあたって……太平出版社　5
序……高村光太郎　9
まえがき――著者序文……小倉　豊文　10
第一信　雲と光のページェント……13
第二信　爆風と熱波……28
第三信　原子爆弾……40
第四信　焦熱の死都……56
第五信　母子叙情……75

第六信　妻子を探して……95
第七信　めぐりあい……111
第八信　八月八日……133
第九信　爆心地……145
第一〇信　「軍都」の最期……160
第一一信　原子爆弾症……176
第一二信　残された恐怖……194
第一三信　「考える人」……208
広島原爆情況図……8

広島原爆情況図


地名等は当時の名称による
は焼失区域を示す
円周は爆心よりの距離を示す
× 地点は書中の事件参照
500m
爆心
1000m
1500m
2000m
上山手
下山手
茶臼山
三篠本町
楠本町
打越町
横川町
牛田町
二葉山
白島町
宇品線
広島駅
尾長町
愛宕町
山陽本線
山陽線
天満町
広瀬町
観音町
舟入本町
舟入川口町
舟入町
水主町
河原町
吉島町
江波町
千田町
竹屋町
山口町
段原町
比治山公園
宇品線
宇品町
皆実町
東新開町
仁保町
府中村
向洋駅
宇品駅
通運駅
東練兵場
西練兵場
第二
第五
第六
第七
第十一
第十二
第十五
第十六
第十七
第十八
第十九
第二十
第二十一
第二十二
第二十三
第二十四
第二十五
第二十六
第二十七
第二十八
第二十九
第三十
第三十一
第三十二
第三十三
第三十四
第三十五
第三十六
第三十七
第三十八
第三十九
第四十
第四十一
第四十二
第四十三
第四十四
第四十五
第四十六
第四十七
第四十八
第四十九
第五十
第五十一
第五十二
第五十三
第五十四
第五十五
第五十六
第五十七
第五十八
第五十九
第六十
第六十一
第六十二
第六十三
第六十四
第六十五
第六十六
第六十七
第六十八
第六十九
第七十
第七十一
第七十二
第七十三
第七十四
第七十五
第七十六
第七十七
第七十八
第七十九
第八十
第八十一
第八十二
第八十三
第八十四
第八十五
第八十六
第八十七
第八十八
第八十九
第九十
第九十一
第九十二
第九十三
第九十四
第九十五
第九十六
第九十七
第九十八
第九十九
第百
第百一
第百二
第百三
第百四
第百五
第百六
第百七
第百八
第百九
第百十
第百十一
第百十二
第百十三
第百十四
第百十五
第百十六
第百十七
第百十八
第百十九
第百二十
第百二十一
第百二十二
第百二十三
第百二十四
第百二十五
第百二十六
第百二十七
第百二十八
第百二十九
第百三十
第百三十一
第百三十二
第百三十三
第百三十四
第百三十五
第百三十六
第百三十七
第百三十八
第百三十九
第百四十
第百四十一
第百四十二
第百四十三
第百四十四
第百四十五
第百四十六
第百四十七
第百四十八
第百四十九
第百五十
第百五十一
第百五十二
第百五十三
第百五十四
第百五十五
第百五十六
第百五十七
第百五十八
第百五十九
第百六十
第百六十一
第百六十二
第百六十三
第百六十四
第百六十五
第百六十六
第百六十七
第百六十八
第百六十九
第百七十
第百七十一
第百七十二
第百七十三
第百七十四
第百七十五
第百七十六
第百七十七
第百七十八
第百七十九
第百八十
第百八十一
第百八十二
第百八十三
第百八十四
第百八十五
第百八十六
第百八十七
第百八十八
第百八十九
第百九十
第百九十一
第百九十二
第百九十三
第百九十四
第百九十五
第百九十六
第百九十七
第百九十八
第百九十九
第二百
第二百一
第二百二
第二百三
第二百四
第二百五
第二百六
第二百七
第二百八
第二百九
第二百十
第二百十一
第二百十二
第二百十三
第二百十四
第二百十五
第二百十六
第二百十七
第二百十八
第二百十九
第二百二十
第二百二十一
第二百二十二
第二百二十三
第二百二十四
第二百二十五
第二百二十六
第二百二十七
第二百二十八
第二百二十九
第二百三十
第二百三十一
第二百三十二
第二百三十三
第二百三十四
第二百三十五
第二百三十六
第二百三十七
第二百三十八
第二百三十九
第二百四十
第二百四十一
第二百四十二
第二百四十三
第二百四十四
第二百四十五
第二百四十六
第二百四十七
第二百四十八
第二百四十九
第二百五十
第二百五十一
第二百五十二
第二百五十三
第二百五十四
第二百五十五
第二百五十六
第二百五十七
第二百五十八
第二百五十九
第二百六十
第二百六十一
第二百六十二
第二百六十三
第二百六十四
第二百六十五
第二百六十六
第二百六十七
第二百六十八
第二百六十九
第二百七十
第二百七十一
第二百七十二
第二百七十三
第二百七十四
第二百七十五
第二百七十六
第二百七十七
第二百七十八
第二百七十九
第二百八十
第二百八十一
第二百八十二
第二百八十三
第二百八十四
第二百八十五
第二百八十六
第二百八十七
第二百八十八
第二百八十九
第二百九十
第二百九十一
第二百九十二
第二百九十三
第二百九十四
第二百九十五
第二百九十六
第二百九十七
第二百九十八
第二百九十九
第三百
第三百一
第三百二
第三百三
第三百四
第三百五
第三百六
第三百七
第三百八
第三百九
第三百十
第三百十一
第三百十二
第三百十三
第三百十四
第三百十五
第三百十六
第三百十七
第三百十八
第三百十九
第三百二十
第三百二十一
第三百二十二
第三百二十三
第三百二十四
第三百二十五
第三百二十六
第三百二十七
第三百二十八
第三百二十九
第三百三十
第三百三十一
第三百三十二
第三百三十三
第三百三十四
第三百三十五
第三百三十六
第三百三十七
第三百三十八
第三百三十九
第三百四十
第三百四十一
第三百四十二
第三百四十三
第三百四十四
第三百四十五
第三百四十六
第三百四十七
第三百四十八
第三百四十九
第三百五十
第三百五十一
第三百五十二
第三百五十三
第三百五十四
第三百五十五
第三百五十六
第三百五十七
第三百五十八
第三百五十九
第三百六十
第三百六十一
第三百六十二
第三百六十三
第三百六十四
第三百六十五
第三百六十六
第三百六十七
第三百六十八
第三百六十九
第三百七十
第三百七十一
第三百七十二
第三百七十三
第三百七十四
第三百七十五
第三百七十六
第三百七十七
第三百七十八
第三百七十九
第三百八十
第三百八十一
第三百八十二
第三百八十三
第三百八十四
第三百八十五
第三百八十六
第三百八十七
第三百八十八
第三百八十九
第三百九十
第三百九十一
第三百九十二
第三百九十三
第三百九十四
第三百九十五
第三百九十六
第三百九十七
第三百九十八
第三百九十九
第四百
第四百一
第四百二
第四百三
第四百四
第四百五
第四百六
第四百七
第四百八
第四百九
第四百十
第四百十一
第四百十二
第四百十三
第四百十四
第四百十五
第四百十六
第四百十七
第四百十八
第四百十九
第四百二十
第四百二十一
第四百二十二
第四百二十三
第四百二十四
第四百二十五
第四百二十六
第四百二十七
第四百二十八
第四百二十九
第四百三十
第四百三十一
第四百三十二
第四百三十三
第四百三十四
第四百三十五
第四百三十六
第四百三十七
第四百三十八
第四百三十九
第四百四十
第四百四十一
第四百四十二
第四百四十三
第四百四十四
第四百四十五
第四百四十六
第四百四十七
第四百四十八
第四百四十九
第四百五十
第四百五十一
第四百五十二
第四百五十三
第四百五十四
第四百五十五
第四百五十六
第四百五十七
第四百五十八
第四百五十九
第四百六十
第四百六十一
第四百六十二
第四百六十三
第四百六十四
第四百六十五
第四百六十六
第四百六十七
第四百六十八
第四百六十九
第四百七十
第四百七十一
第四百七十二
第四百七十三
第四百七十四
第四百七十五
第四百七十六
第四百七十七
第四百七十八
第四百七十九
第四百八十
第四百八十一
第四百八十二
第四百八十三
第四百八十四
第四百八十五
第四百八十六
第四百八十七
第四百八十八
第四百八十九
第四百九十
第四百九十一
第四百九十二
第四百九十三
第四百九十四
第四百九十五
第四百九十六
第四百九十七
第四百九十八
第四百九十九
第五百
第五百一
第五百二
第五百三
第五百四
第五百五
第五百六
第五百七
第五百八
第五百九
第五百十
第五百十一
第五百十二
第五百十三
第五百十四
第五百十五
第五百十六
第五百十七
第五百十八
第五百十九
第五百二十
第五百二十一
第五百二十二
第五百二十三
第五百二十四
第五百二十五
第五百二十六
第五百二十七
第五百二十八
第五百二十九
第五百三十
第五百三十一
第五百三十二
第五百三十三
第五百三十四
第五百三十五
第五百三十六
第五百三十七
第五百三十八
第五百三十九
第五百四十
第五百四十一
第五百四十二
第五百四十三
第五百四十四
第五百四十五
第五百四十六
第五百四十七
第五百四十八
第五百四十九
第五百五十
第五百五十一
第五百五十二
第五百五十三
第五百五十四
第五百五十五
第五百五十六
第五百五十七
第五百五十八
第五百五十九
第五百六十
第五百六十一
第五百六十二
第五百六十三
第五百六十四
第五百六十五
第五百六十六
第五百六十七
第五百六十八
第五百六十九
第五百七十
第五百七十一
第五百七十二
第五百七十三
第五百七十四
第五百七十五
第五百七十六
第五百七十七
第五百七十八
第五百七十九
第五百八十
第五百八十一
第五百八十二
第五百八十三
第五百八十四
第五百八十五
第五百八十六
第五百八十七
第五百八十八
第五百八十九
第五百九十
第五百九十一
第五百九十二
第五百九十三
第五百九十四
第五百九十五
第五百九十六
第五百九十七
第五百九十八
第五百九十九
第六百
第六百一
第六百二
第六百三
第六百四
第六百五
第六百六
第六百七
第六百八
第六百九
第六百十
第六百十一
第六百十二
第六百十三
第六百十四
第六百十五
第六百十六
第六百十七
第六百十八
第六百十九
第六百二十
第六百二十一
第六百二十二
第六百二十三
第六百二十四
第六百二十五
第六百二十六
第六百二十七
第六百二十八
第六百二十九
第六百三十
第六百三十一
第六百三十二
第六百三十三
第六百三十四
第六百三十五
第六百三十六
第六百三十七
第六百三十八
第六百三十九
第六百四十
第六百四十一
第六百四十二
第六百四十三
第六百四十四
第六百四十五
第六百四十六
第六百四十七
第六百四十八
第六百四十九
第六百五十
第六百五十一
第六百五十二
第六百五十三
第六百五十四
第六百五十五
第六百五十六
第六百五十七
第六百五十八
第六百五十九
第六百六十
第六百六十一
第六百六十二
第六百六十三
第六百六十四
第六百六十五
第六百六十六
第六百六十七
第六百六十八
第六百六十九
第六百七十
第六百七十一
第六百七十二
第六百七十三
第六百七十四
第六百七十五
第六百七十六
第六百七十七
第六百七十八
第六百七十九
第六百八十
第六百八十一
第六百八十二
第六百八十三
第六百八十四
第六百八十五
第六百八十六
第六百八十七
第六百八十八
第六百八十九
第六百九十
第六百九十一
第六百九十二
第六百九十三
第六百九十四
第六百九十五
第六百九十六
第六百九十七
第六百九十八
第六百九十九
第七百
第七百一
第七百二
第七百三
第七百四
第七百五
第七百六
第七百七
第七百八
第七百九
第七百十
第七百十一
第七百十二
第七百十三
第七百十四
第七百十五
第七百十六
第七百十七
第七百十八
第七百十九
第七百二十
第七百二十一
第七百二十二
第七百二十三
第七百二十四
第七百二十五
第七百二十六
第七百二十七
第七百二十八
第七百二十九
第七百三十
第七百三十一
第七百三十二
第七百三十三
第七百三十四
第七百三十五
第七百三十六
第七百三十七
第七百三十八
第七百三十九
第七百四十
第七百四十一
第七百四十二
第七百四十三
第七百四十四
第七百四十五
第七百四十六
第七百四十七
第七百四十八
第七百四十九
第七百五十
第七百五十一
第七百五十二
第七百五十三
第七百五十四
第七百五十五
第七百五十六
第七百五十七
第七百五十八
第七百五十九
第七百六十
第七百六十一
第七百六十二
第七百六十三
第七百六十四
第七百六十五
第七百六十六
第七百六十七
第七百六十八
第七百六十九
第七百七十
第七百七十一
第七百七十二
第七百七十三
第七百七十四
第七百七十五
第七百七十六
第七百七十七
第七百七十八
第七百七十九
第七百八十
第七百八十一
第七百八十二
第七百八十三
第七百八十四
第七百八十五
第七百八十六
第七百八十七
第七百八十八
第七百八十九
第七百九十
第七百九十一
第七百九十二
第七百九十三
第七百九十四
第七百九十五
第七百九十六
第七百九十七
第七百九十八
第七百九十九
第八百
第八百一
第八百二
第八百三
第八百四
第八百五
第八百六
第八百七
第八百八
第八百九
第八百十
第八百十一
第八百十二
第八百十三
第八百十四
第八百十五
第八百十六
第八百十七
第八百十八
第八百十九
第八百二十
第八百二十一
第八百二十二
第八百二十三
第八百二十四
第八百二十五
第八百二十六
第八百二十七
第八百二十八
第八百二十九
第八百三十
第八百三十一
第八百三十二
第八百三十三
第八百三十四
第八百三十五
第八百三十六
第八百三十七
第八百三十八
第八百三十九
第八百四十
第八百四十一
第八百四十二
第八百四十三
第八百四十四
第八百四十五
第八百四十六
第八百四十七
第八百四十八
第八百四十九
第八百五十
第八百五十一
第八百五十二
第八百五十三
第八百五十四
第八百五十五
第八百五十六
第八百五十七
第八百五十八
第八百五十九
第八百六十
第八百六十一
第八百六十二
第八百六十三
第八百六十四
第八百六十五
第八百六十六
第八百六十七
第八百六十八
第八百六十九
第八百七十
第八百七十一
第八百七十二
第八百七十三
第八百七十四
第八百七十五
第八百七十六
第八百七十七
第八百七十八
第八百七十九
第八百八十
第八百八十一
第八百八十二
第八百八十三
第八百八十四
第八百八十五
第八百八十六
第八百八十七
第八百八十八
第八百八十九
第八百九十
第八百九十一
第八百九十二
第八百九十三
第八百九十四
第八百九十五
第八百九十六
第八百九十七
第八百九十八
第八百九十九
第九百
第九百一
第九百二
第九百三
第九百四
第九百五
第九百六
第九百七
第九百八
第九百九
第九百十
第九百十一
第九百十二
第九百十三
第九百十四
第九百十五
第九百十六
第九百十七
第九百十八
第九百十九
第九百二十
第九百二十一
第九百二十二
第九百二十三
第九百二十四
第九百二十五
第九百二十六
第九百二十七
第九百二十八
第九百二十九
第九百三十
第九百三十一
第九百三十二
第九百三十三
第九百三十四
第九百三十五
第九百三十六
第九百三十七
第九百三十八
第九百三十九
第九百四十
第九百四十一
第九百四十二
第九百四十三
第九百四十四
第九百四十五
第九百四十六
第九百四十七
第九百四十八
第九百四十九
第九百五十
第九百五十一
第九百五十二
第九百五十三
第九百五十四
第九百五十五
第九百五十六
第九百五十七
第九百五十八
第九百五十九
第九百六十
第九百六十一
第九百六十二
第九百六十三
第九百六十四
第九百六十五
第九百六十六
第九百六十七
第九百六十八
第九百六十九
第九百七十
第九百七十一
第九百七十二
第九百七十三
第九百七十四
第九百七十五
第九百七十六
第九百七十七
第九百七十八
第九百七十九
第九百八十
第九百八十一
第九百八十二
第九百八十三
第九百八十四
第九百八十五
第九百八十六
第九百八十七
第九百八十八
第九百八十九
第九百九十
第九百九十一
第九百九十二
第九百九十三
第九百九十四
第九百九十五
第九百九十六
第九百九十七
第九百九十八
第九百九十九
第千
第千一
第千二
第千三
第千四
第千五
第千六
第千七
第千八
第千九
第千十
第千十一
第千十二
第千十三
第千十四
第千十五
第千十六
第千十七
第千十八
第千十九
第千二十
第千二十一
第千二十二
第千二十三
第千二十四
第千二十五
第千二十六
第千二十七
第千二十八
第千二十九
第千三十
第千三十一
第千三十二
第千三十三
第千三十四
第千三十五
第千三十六
第千三十七
第千三十八
第千三十九
第千四十
第千四十一
第千四十二
第千四十三
第千四十四
第千四十五
第千四十六
第千四十七
第千四十八
第千四十九
第千五十
第千五十一
第千五十二
第千五十三
第千五十四
第千五十五
第千五十六
第千五十七
第千五十八
第千五十九
第千六十
第千六十一
第千六十二
第千六十三
第千六十四
第千六十五
第千六十六
第千六十七
第千六十八
第千六十九
第千七十
第千七十一
第千七十二
第千七十三
第千七十四
第千七十五
第千七十六
第千七十七
第千七十八
第千七十九
第千八十
第千八十一
第千八十二
第千八十三
第千八十四
第千八十五
第千八十六
第千八十七
第千八十八
第千八十九
第千九十
第千九十一
第千九十二
第千九十三
第千九十四
第千九十五
第千九十六
第千九十七
第千九十八
第千九十九
第二千
第二千一
第二千二
第二千三
第二千四
第二千五
第二千六
第二千七
第二千八
第二千九
第二千十
第二千十一
第二千十二
第二千十三
第二千十四
第二千十五
第二千十六
第二千十七
第二千十八
第二千十九
第二千二十
第二千二十一
第二千二十二
第二千二十三
第二千二十四
第二千二十五
第二千二十六
第二千二十七
第二千二十八
第二千二十九
第二千三十
第二千三十一
第二千三十二
第二千三十三
第二千三十四
第二千三十五
第二千三十六
第二千三十七
第二千三十八
第二千三十九
第二千四十
第二千四十一
第二千四十二
第二千四十三
第二千四十四
第二千四十五
第二千四十六
第二千四十七
第二千四十八
第二千四十九
第二千五十
第二千五十一
第二千五十二
第二千五十三
第二千五十四
第二千五十五
第二千五十六
第二千五十七
第二千五十八
第二千五十九
第二千六十
第二千六十一
第二千六十二
第二千六十三
第二千六十四
第二千六十五
第二千六十六
第二千六十七
第二千六十八
第二千六十九
第二千七十
第二千七十一
第二千七十二
第二千七十三
第二千七十四
第二千七十五
第二千七十六
第二千七十七
第二千七十八
第二千七十九
第二千八十
第二千八十一
第二千八十二
第二千八十三
第二千八十四
第二千八十五
第二千八十六
第二千八十七
第二千八十八
第二千八十九
第二千九十
第二千九十一
第二千九十二
第二千九十三
第二千九十四
第二千九十五
第二千九十六
第二千九十七
第二千九十八
第二千九十九
第三千
第三千一
第三千二
第三千三
第三千四
第三千五
第三千六
第三千七
第三千八
第三千九
第三千十
第三千十一
第三千十二
第三千十三
第三千十四
第三千十五
第三千十六
第三千十七
第三千十八
第三千十九
第三千二十
第三千二十一
第三千二十二
第三千二十三
第三千二十四
第三千二十五
第三千二十六
第三千二十七
第三千二十八
第三千二十九
第三千三十
第三千三十一
第三千三十二
第三千三十三
第三千三十四
第三千三十五
第三千三十六
第三千三十七
第三千三十八
第三千三十九
第三千四十
第三千四十一
第三千四十二
第三千四十三
第三千四十四
第三千四十五
第三千四十六
第三千四十七
第三千四十八
第三千四十九
第三千五十
第三千五十一
第三千五十二
第三千五十三
第三千五十四
第三千五十五
第三千五十六
第三千五十七
第三千五十八
第三千五十九
第三千六十
第三千六十一
第三千六十二
第三千六十三
第三千六十四
第三千六十五
第三千六十六
第三千六十七
第三千六十八
第三千六十九
第三千七十
第三千七十一
第三千七十二
第三千七十三
第三千七十四
第三千七十五
第三千七十六
第三千七十七
第三千七十八
第三千七十九
第三千八十
第三千八十一
第三千八十二
第三千八十三
第三千八十四
第三千八十五
第三千八十六
第三千八十七
第三千八十八
第三千八十九
第三千九十
第三千九十一
第三千九十二
第三千九十三
第三千九十四
第三千九十五
第三千九十六
第三千九十七
第三千九十八
第三千九十九
第四千
第四千一
第四千二
第四千三
第四千四
第四千五
第四千六
第四千七
第四千八
第四千九
第四千十
第四千十一
第四千十二
第四千十三
第四千十四
第四千十五
第四千十六
第四千十七
第四千十八
第四千十九
第四千二十
第四千二十一
第四千二十二
第四千二十三
第四千二十四
第四千二十五
第四千二十六
第四千二十七
第四千二十八
第四千二十九
第四千三十
第四千三十一
第四千三十二
第四千三十三
第四千三十四
第四千三十五
第四千三十六
第四千三十七
第四千三十八
第四千三十九
第四千四十
第四千四十一
第四千四十二
第四千四十三
第四千四十四
第四千四十五
第四千四十六
第四千四十七
第四千四十八
第四千四十九
第四千五十
第四千五十一
第四千五十二
第四千五十三
第四千五十四
第四千五十五
第四千五十六
第四千五十七
第四千五十八
第四千五十九
第四千六十
第四千六十一
第四千六十二
第四千六十三
第四千六十四
第四千六十五
第四千六十六
第四千六十七
第四千六十八
第四千六十九
第四千七十
第四千七十一
第四千七十二
第四千七十三
第四千七十四
第四千七十五
第四千七十六
第四千七十七
第四千七十八
第四千七十九
第四千八十
第四千八十一
第四千八十二
第四千八十三
第四千八十四
第四千八十五
第四千八十六
第四千八十七
第四千八十八
第四千八十九
第四千九十
第四千九十一
第四千九十二
第四千九十三
第四千九十四
第四千九十五
第四千九十六
第四千九十七
第四千九十八
第四千九十九
第五千
第五千一
第五千二
第五千三
第五千四
第五千五
第五千六
第五千七
第五千八
第五千九
第五千十
第五千十一
第五千十二
第五千十三
第五千十四
第五千十五
第五千十六
第五千十七
第五千十八
第五千十九
第五千二十
第五千二十一
第五千二十二
第五千二十三
第五千二十四
第五千二十五
第五千二十六
第五千二十七
第五千二十八
第五千二十九
第五千三十
第五千三十一
第五千三十二
第五千三十三
第五千三十四
第五千三十五
第五千三十六
第五千三十七
第五千三十八
第五千三十九
第五千四十
第五千四十一
第五千四十二
第五千四十三
第五千四十四
第五千四十五
第五千四十六
第五千四十七
第五千四十八
第五千四十九
第五千五十
第五千五十一
第五千五十二
第五千五十三
第五千五十四
第五千五十五
第五千五十六
第五千五十七
第五千五十八
第五千五十九
第五千六十
第五千六十一
第五千六十二
第五千六十三
第五千六十四
第五千六十五
第五千六十六
第五千六十七
第五千六十八
第五千六十九
第五千七十
第五千七十一
第五千七十二
第五千七十三
第五千七十四
第五千七十五
第五千七十六
第五千七十七
第五千七十八
第五千七十九
第五千八十
第五千八十一
第五千八十二
第五千八十三
第五千八十四
第五千八十五
第五千八十六
第五千八十七
第五千八十八
第五千八十九
第五千九十
第五千九十一
第五千九十二
第五千九十三
第五千九十四
第五千九十五
第五千九十六
第五千九十七
第五千九十八
第五千九十九
第六千
第六千一
第六千二
第六千三
第六千四
第六千五
第六千六
第六千七
第六千八
第六千九
第六千十
第六千十一
第六千十二
第六千十三
第六千十四
第六千十五
第六千十六
第六千十七
第六千十八
第六千十九
第六千二十
第六千二十一
第六千二十二
第六千二十三
第六千二十四
第六千二十五
第六千二十六
第六千二十七
第六千二十八
第六千二十九
第六千三十
第六千三十一
第六千三十二
第六千三十三
第六千三十四
第六千三十五
第六千三十六
第六千三十七
第六千三十八
第六千三十九
第六千四十
第六千四十一
第六千四十二
第六千四十三
第六千四十四
第六千四十五
第六千四十六
第六千四十七
第六千四十八
第六千四十九
第六千五十
第六千五十一
第六千五十二
第六千五十三
第六千五十四
第六千五十五
第六千五十六
第六千五十七
第六千五十八
第六千五十九
第六千六十
第六千六十一
第六千六十二
第六千六十三
第六千六十四
第六千六十五
第六千六十六
第六千六十七
第六千六十八
第六千六十九
第六千七十
第六千七十一
第六千七十二
第六千七十三
第六千七十四
第六千七十五
第六千七十六
第六千七十七
第六千七十八
第六千七十九
第六千八十
第六千八十一
第六千八十二
第六千八十三
第六千八十四
第六千八十五
第六千八十六
第六千八十七
第六千八十八
第六千八十九
第六千九十
第六千九十一
第六千九十二
第六千九十三
第六千九十四
第六千九十五
第六千九十六
第六千九十七
第六千九十八
第六千九十九
第七千
第七千一
第七千二
第七千三
第七千四
第七千五
第七千六
第七千七
第七千八
第七千九
第七千十
第七千十一
第七千十二
第七千十三
第七千十四
第七千十五
第七千十六
第七千十七
第七千十八
第七千十九
第七千二十
第七千二十一
第七千二十二
第七千二十三
第七千二十四
第七千二十五
第七千二十六
第七千二十七
第七千二十八
第七千二十九
第七千三十
第七千三十一
第七千三十二
第七千三十三
第七千三十四
第七千三十五
第七千三十六
第七千三十七
第七千三十八
第七千三十九
第七千四十
第七千四十一
第七千四十二
第七千四十三
第七千四十四
第七千四十五
第七千四十六
第七千四十七
第七千四十八
第七千四十九
第七千五十
第七千五十一
第七千五十二
第七千五十三
第七千五十四
第七千五十五
第七千五十六
第七千五十七
第七千五十八
第七千五十九
第七千六十
第七千六十一
第七千六十二
第七千六十三
第七千六十四
第七千六十五
第七千六十六
第七千六十七
第七千六十八
第七千六十九
第七千七十
第七千七十一
第七千七十二
第七千七十三
第七千七十四
第七千七十五
第七千七十六
第七千七十七
第七千七十八
第七千七十九
第七千八十
第七千八十一
第七千八十二
第七千八十三
第七千八十四
第七千八十五
第七千八十六
第七千八十七
第七千八十八
第七千八十九
第七千九十
第七千九十一
第七千九十二
第七千九十三
第七千九十四
第七千九十五
第七千九十六
第七千九十七
第七千九十八
第七千九十九
第八千
第八千一
第八千二
第八千三
第八千四
第八千五
第八千六
第八千七
第八千八
第八千九
第八千十
第八千十一
第八千十二
第八千十三
第八千十四
第八千十五
第八千十六
第八千十七
第八千十八
第八千十九
第八千二十
第八千二十一
第八千二十二
第八千二十三
第八千二十四
第八千二十五
第八千二十六
第八千二十七
第八千二十八
第八千二十九
第八千三十
第八千三十一
第八千三十二
第八千三十三
第八千三十四
第八千三十五
第八千三十六
第八千三十七
第八千三十八
第八千三十九
第八千四十
第八千四十一
第八千四十二
第八千四十三
第八千四十四
第八千四十五
第八千四十六
第八千四十七
第八千四十八
第八千四十九
第八千五十
第八千五十一
第八千五十二
第八千五十三
第八千五十四
第八千五十五
第八千五十六
第八千五十七
第八千五十八
第八千五十九
第八千六十
第八千六十一
第八千六十二
第八千六十三
第八千六十四
第八千六十五
第八千六十六
第八千六十七
第八千六十八
第八千六十九
第八千七十
第八千七十一
第八千七十二
第八千七十三
第八千七十四
第八千七十五
第八千七十六
第八千七十七
第八千七十八
第八千七十九
第八千八十
第八千八十一
第八千八十二
第八千八十三
第八千八十四
第八千八十五
第八千八十六
第八千八十七
第八千八十八
第八千八十九
第八千九十
第八千九十一
第八千九十二
第八千九十三
第八千九十四
第八千九十五
第八千九十六
第八千九十七
第八千九十八
第八千九十九
第九千
第九千一
第九千二
第九千三
第九千四
第九千五
第九千六
第九千七
第九千八
第九千九
第九千十
第九千十一
第九千十二
第九千十三
第九千十四
第九千十五
第九千十六
第九千十七
第九千十八
第九千十九
第九千二十
第九千二十一
第九千二十二
第九千二十三
第九千二十四
第九千二十五
第九千二十六
第九千二十七
第九千二十八
第九千二十九
第九千三十
第九千三十一
第九千三十二
第九千三十三
第九千三十四
第九千三十五
第九千三十六
第九千三十七
第九千三十八
第九千三十九
第九千四十
第九千四十一
第九千四十二
第九千四十三
第九千四十四
第九千四十五
第九千四十六
第九千四十七
第九千四十八
第九千四十九
第九千五十
第九千五十一
第九千五十二
第九千五十三
第九千五十四
第九千五十五
第九千五十六
第九千五十七
第九千五十八
第九千五十九
第九千六十
第九千六十一
第九千六十二
第九千六十三
第九千六十四
第九千六十五
第九千六十六
第九千六十七
第九千六十八
第九千六十九
第九千七十
第九千七十一
第九千七十二
第九千七十三
第九千七十四
第九千七十五
第九千七十六
第九千七十七
第九千七十八
第九千七十九
第九千八十
第九千八十一
第九千八十二
第九千八十三
第九千八十四
第九千八十五
第九千八十六
第九千八十七
第九千八十八
第九千八十九
第九千九十
第九千九十一
第九千九十二
第九千九十三
第九千九十四
第九千九十五
第九千九十六
第九千九十七
第九千九十八
第九千九十九
第十千
第十千一
第十千二
第十千三
第十千四
第十千五
第十千六
第十千七
第十千八
第十千九
第十千十
第十千十一
第十千十二
第十千十三
第十千十四
第十千十五
第十千十六
第十千十七
第十千十八
第十千十九
第十千二十
第十千二十一
第十千二十二
第十千二十三
第十千二十四
第十千二十五
第十千二十六
第十千二十七
第十千二十八
第十千二十九
第十千三十
第十千三十一
第十千三十二
第十千三十三
第十千三十四
第十千三十五
第十千三十六
第十千三十七
第十千三十八
第十千三十九
第十千四十
第十千四十一
第十千四十二
第十千四十三
第十千四十四
第十千四十五
第十千四十六
第十千四十七
第十千四十八
第十千四十九
第十千五十
第十千五十一
第十千五十二
第十千五十三
第十千五十四
第十千五十五
第十千五十六
第十千五十七
第十千五十八
第十千五十九
第十千六十
第十千六十一
第十千六十二
第十千六十三
第十千六十四
第十千六十五
第十千六十六
第十千六十七
第十千六十八
第十千六十九
第十千七十
第十千七十一
第十千七十二
第十千七十三
第十千七十四
第十千七十五
第十千七十六
第十千七十七
第十千七十八
第十千七十九
第十千八十
第十千八十一
第十千八十二
第十千八十三
第十千八十四
第十千八十五
第十千八十六
第十千八十七
第十千八十八
第十千八十九
第十千九十
第十千九十一
第十千九十二
第十千九十三
第十千九十四
第十千九十五
第十千九十六
第十千九十七
第十千九十八
第十千九十九

序

豆ランプの光の下で、小倉豊文氏の『絶後の記録』を読みおわって、私は何だか頭の中がきなくさいようになり、自分がこんな静かな山の中の小屋に住んでいるのをむしろ夢幻のようにさえ感じた。翌日の夜また読みかえし、その後また読みなおして、しんからこの実感のあふれた記事の真相に心をゆすぶられた。はなはだ素朴な書き方で、氏自身の体験が端からつぎつぎと記録されていくうちに、この火薬庫爆発かと思ったものが、世界における前代末聞の原子爆弾の爆裂であることがわかってくるものすごさは、まったく私を戦慄させた。いわゆる原子爆弾症にたおれた夫人のことに筆がおよぶとき、ほとんど卒読に堪えない思いがした。この多くの無惨の死者が、もし平和への人類の進みに高く燈をかかげるものとならなかったら、どうしよう。この記録を読んだら、どんな政治家でも、軍人でも、もう実際の戦争をする気はなくなるであろう。今後、せめていわゆる冷たい戦争程度だけで戦争は終わるようになってくれなければ、この沢山の日本人は犬死にになる。この本をよく読んで世界の人びとに考えてもらいたい。

一九四九年二月

高村光太郎

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

まえがき——著者序文

本書は、「大日本帝国」の無条件降服によって第二次世界大戦が終結し、「民主国日本」がアメリカを主力とする占領軍政下にあった一九四八年一一月に刊行した初版(中央社刊)の装本の面影を生かし、かつ最近発見した当時のメモと本書の原稿の下敷きになった手記によって加除訂正を加えたもので、拙著『絶後の記録』の定本として刊行するものである。

アメリカ軍の占領下にあった当時、本書の初版本には、原爆の被害や恐怖をしめす写真の掲載は一切許されず、裏表紙には"Printed in Occupeid Japan"と印刷せねばならなかった。(なお、本書の冒頭に掲げた高村光太郎氏の文章は、初版を読まれて後に氏から贈られたものである)。

このたび本書の決定版をこのようなかたちで上梓する所以は、太平出版社の「シリーズ・戦争の証言」の刊行の趣旨に敬意を表し、かつ都市全体が被爆禍を受けた史上唯一の広島の当時の記録を、あらためて最初の手記に最も近い形で公けにする責任を痛感したからである。

しかし、急激に研究の「進歩」した現在の原爆・水爆に比較すれば、当時の広島のそれは「子どもの玩具」程度のものでしかなかったという。とすれば広島の体験のごときは何の役にもたたぬといわれるかも知れない。しかし「子どもの玩具」程度であってすら、かくの如くであったという事実を知ることは、決して何の役にも立たぬものではないであろう。

なお、その後の公私の調査・研究によって格段と正確度を増している今日、著者の個人的な狭い

経験や見解のために、原爆にたいする知識や当時の被爆状況などについて、記述上の過誤も決して少なくないとおもう。しかし、本書には当時の時点において知る得る限りの正確と詳細を期したつもりである。読者は、本書を当時の一民間人が被爆後もっとも早くしたためた記録として読んでいただきたい。

さらにあらかじめ読者のご諒解を得たいのは、書中に頻出する当時の軍事的・時局的な数かずの用語と、至るところに現われる現在とはウラハラな「親米的」感情である。前者も後者も当時として止むをえなかったといってしまえばそれまでであるが、後者については、軍部専制の政治に苦しみ、生活物資の欠乏と悪化に悩みつづけた当時の国民一般の大多数の真情でもあったといって過言ではないであろう。著者自身は、加害者であったアメリカよりも、現在以上に人間不在であった軍部独裁の政治、それをそうあらしめた政治家ないし官僚たちへの不満が強烈であり、さらには、自分をも含めて権力に弱く、世界の大勢に盲目であった、日本人ないし日本の歴史への不信が、押さえきれなかったのである。

最後に、各章（信）末に註記した、手記の執筆年月日と場所について記しておきたい。「地御前」は原爆死した亡妻の妹の婚家の所在地で、現在の広島県佐伯郡廿日市町内の部落名であり、「大阪」は現在の大阪市天王寺区元町所在の四天王寺内である。そして「第一信」を最初にしたためた一九四五年一一月一〇日は、小学校児童であった三児を「寄宿舎学校」ともいうべき施設に託して、亡妻の骨と「二人」、前述の地御前の亡妻の妹の家の二階の物置部屋であり、「第一三信」

を最後に書き終った一九四六年八月六日は、前述の大阪四天王寺の一室であって、その後変更を余儀なくされたが、学究生活を放棄して三児とともに新しい生活設計を覚悟した際であった。

なお、本書中にはすべて人名だけは仮名にしたが、亡妻文子は文代、長女静子は和子、長男慎一は敬一、次男恭二は謹二が本名であることだけをお断りしておく。

なお、このたびの刊行を機会に用語・用字をできるだけ現代のものに変えた。

一九七一年七月七日

著者識

第一信　雲と光のページェント

「ピカッと、とても大きな稲妻が光ったと思ったの、それから、なんにもわからなくなっちゃったの、福屋の前で――」。

文子――。

八月七日の夜、奇跡的にまだ生きているおまえとめぐりあったとき、おまえはとぎれとぎれにそういったね。その八月六日の朝、おまえが八丁堀の福屋の前に立っていたころ、おれは偶然向洋のあたりを広島の方に向かって歩いていた。

じつによく晴れわたって、広島特有の風のないむし暑い朝だったね。空いっぱいに真夏の朝の光線があふれるように流れて、少しもやもやしている紺碧の深い虚空は、チカチカ目に痛いほどだった。警報解除になって三〇分、あるいは一時間ほどもたっていたろうか。おれは乾ききってほこりっぽいアスファルトの上をぼんやり歩いていた。

そして、大洲橋のたもとにきて、ちょっと足をとめて、海の沖合のキラキラ光る波の色に目を転じたせつな、だしぬけにパッとマグネシウムに点火したときのような青白い光、しかもものす

ごく巨大な、空をきるような鋭い閃光を、右手――広島の上空あたり（と、とっさのまに思った）に感じた。瞬間、おれは無意識にバタッと大地にからだを伏せた。

ちょっと息をころしていたが、すぐ頭をもたげて広島の上空を見ると、さっき見たばかりの紺碧の西空に入道雲のような巨大な白い雲のかたまり、あるいは煙か、いずれにしても突如の瞬間の出現だ。そして、雨もよいの空の月の暈に似た光の輪が、キラキラ光って周辺に虹のようにひろがる。白い雲のかたまりは中心に向かって巻きこむように渦まきながら、横にぐんぐん拡大する。

つぎの瞬間、その下方一帯にものすごい大きな雲の山、紅蓮の炎の大火柱、「空中火山」の大噴煙、なんと表現していいかわからない。まったく形容を絶した大入道雲が、またしてもムクムクムクムクわきあがる。下から下から上へ上へと盛りあがる。グングングングンわきあがり盛りあがって、その容積を青空に食いこませる。やがてその頂のあたりが、夕立雲のくずれるようにひろがって横に漠漠とたなびく。はじめの雲塊はその上に太い竜巻のような足を垂れさげて、まるで巨大な松茸のオバケのよう。そして、みるみる上下二段の広がりをもった妖雲の巨柱になった。その根はたしかに地上に接している。しかも形は刻刻に動いて、色も千変万化する。あちこちからは何十とない小閃光の爆発だ。

古代インドの宇宙構造の想像図、地上八万四千由旬（古代インドの距離の単位）という須弥山大千世界の出現、おれはとっさにそう思った。だが、かつて見たいくつかの「須弥山図」を想起してみてもだめだ。旧約聖書のモーゼが見たという雲の柱も空想してみたがだめ。古代人の素朴な

構想や幻想は、この「二〇世紀の神話」、世界の新しい突如の出現を解説するのになんの役にもたたない。まさに大空いっぱいを舞台にした雲と光の一大ページェントだ。

しばしおれは、茫然自失、恍惚としていた。だが「戦争」という意識がまもなく目をさましてきた。おれは大急ぎでおれの「空襲知識」の「おもちゃ箱」をひっくりかえした。

——この白昼に照明弾でもあるまい。

——焼夷弾でもない、爆弾でもない。

——だいいち、飛行機が見えないじゃないか。

——しかし、あの光は？　雲は？……。

……

——「殺人光線！」。

おれはこの言葉につきあたったせつな、電流がジーンと頭の先から足の先までつっ走るように感じた。だが「殺人光線」のおれの知識は、ただ一つの「単語」にすぎぬ。不安が爆発するようにこみあげてきた。

おれはあわてて腕時計を見た。八時一五分を少しまわっている。

その時だ。

ドーンという鈍い、しかし大きな轟音。同時に息の根を一挙にとめられたような風圧、たしかに爆風だ。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com